愛　知　県

地域密着型サービス自己評価票

・　指定小規模多機能型居宅介護
（指定介護予防小規模多機能型居宅介護）
・　指定認知症対応型共同生活介護
（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）

（よりよい事業所を目指して・・・）

記入年月日	平成　19　年　8　月　26　日
事業所名	社会福祉法人一誠福祉会　グループホームうららあゆの里
事業所番号	2374000285
記入者名	職名　　氏名　　河邉　きみ江
連絡先電話番号	０５３６－２２－４７１１

（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** **地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている**	法人の理念である「ノーマライゼイション」を核とし、当ホームの理念　1、笑いがある　2、快地よい　3、安心がある　4、地域との触れ合い　を設定している。	○	地域行事等にさらに参加し触れ合いの場を多くもっていく
2	**○理念の共有と日々の取り組み** **管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる**	理念実施の成果として日中の施錠はなし、全て開放し誰一人脱出される方はない（安心と居心地の良さがあるのでは）	○	笑うこと、快地良い事、安全、安心な事を常に念頭に置き共に生きていきたい。
3	**○家族や地域への理念の浸透** **事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる**	玄関先に手作りの理念を掲げ来客、御家族に常にアピールしている。利用者の散歩も2名の利用者に関しては近所周辺は自由にしてある（区長さん、民生委員等に伝えてあり、名札もつけて出掛ける）　運営推進会議は3ケ月／1回実施	○	当ホーム（グループホーム）を理解し認識して頂くように心がけ相互扶助を目指す。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** **管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている**	隣は老健、特養、ケアハウス、保健所、障害者施設、保育園等、新城市の「福祉の里」作りの事業計画として意図的に作られた地域にある。その為街中での付き合い方とは異なるがこの環境を生かしたお付き合いを考え行き来している。	○	「福祉の里」の利点を考えこの環境をどう生かし活性化させることができるのか。他施設との交流が密になる事で種々な生きがい作りにが出来るよう除々に深めていく。又近隣に住む住人との触れ合いは散歩、喫茶、神社に参る等少しづつ深めていく。
5	**○地域とのつきあい** **事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている**	地域活動への参加は環境上中々進まないのが現状、行事への参加は徐々にできつつある。	○	1、グループホームの機能を地域住人に理解して頂くため広報活動をしていく。　2、地域とのふれあいの場作り（例食事会に招待、ホームの行事への招待）　3、地域のサークル活動（文化教室等）への積極的参加

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での相談、又御家族の困っている事等、常に気にかけ相談できる雰囲気作りをしている。	○	認知症について気軽に相談できる場作りをしていきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の中には意義まで理解していない者もいる。日々開かれたサービス提供を心掛けている。	○	評価も参考にしているが、我々一誠会の方針も合わせ改善している
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でサービスの実際、評価への取り組み状況等について積極的に報告し、話し合いを行っている。又その場で出た意見、希望等については一つ一つではあるがクリアーしていっている。	○	運営推進会議をどう活用していくのか思案、模索している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関わっていない為分かりません。（職員） 連携はない	○	市の考え方、姿勢が全く分からないのが現状。地域資源としてグループホームをどう活用したいのか知りたいと考えている。機会あれば会話を持ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特に学習会や研修等は行なっていない。 職員全体が理解しているような体制では無い様に思います。　　管理者が対応されていると思います。 支援をしている（1名）	○	常に社会の変動や制度の動きについて把握し必要な知識を正確に持てるよう積極的に勉強会等を開いていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や資料等によってどの様な虐待があるか、何が虐待なのかを勉強している。 虐待の防止に努めています。	○	虐待というものをしっかりと理解し、あらゆる視点（行動、言葉、環境等）から振り返り、他の職員と話し合う場を設ける。常に自己覚知を心がけ、自分の今ある能力を知り、入居者と接することを伝えている

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき契約時の説明を十分に行なっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限り利用者の方と会話をし意見、不満、苦情を聞いている。 職員に言いにくい事はボランティア等、外部の人との散歩、コミュニケーションを利用している。腹いっぱい話す機会作りをしている。。 懇親会を必要に応じ持ち入居者、職員全員で話しをする機会を設定している。	○	利用者の言葉にならない言葉を理解する、ボランティア等外部の人達との散歩やコミュニケーションの場を設け十分に話が出来るようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の報告を基に日々の生活状況はもちろん、少しでも体調の変化が見られた時はただちに管理者が家族等へ連絡し利用者の状態をその都度細めな報告をしている。 金銭面に関しては管理者が管理している。殆どの家族とは少なくとも1回／月は会っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となり意見、不満、苦情等を受けている。 家族の要望等については朝礼やミーティングの際、職員に伝達、指導を行なっている。	○	家族の意見を基に職員で話し合い取り組んでいる。 事業所全体として物事をとらえ、同じようなミスを起こさないように共通の意識を持つようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の成長に合わせ、意見、提案はとり入れている。 職員会議により意見や提案を出し合い検討している。 出来る事から反映させている。	○	意見提案ができる職員であってほしい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制は人員にばらつきがあると思う。人手不足のため余裕はないとおもわれます。 職員の質の向上が人手不足の解消につながると考える。常に上を目指すよう指導している。	○	人が多ければよいケアが出来るとは考えていない。 もっと職員を充実させて人員を均等に配置していった方がよい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や退職等ある場合引継ぎ等の時間などは十分あると思われる。 職員への配慮はあまり無いと思われます。	○	配置された時他の職員が細かなサポートが出来るよう工夫されている。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日が勉強の場と考え、状況、状態に応じ指導を心掛けている。　全職員ではないが研修を受ける機会は確保されています。勉強会を開いたり、先輩職員の指導もされています。 定期研修（荘内）茶道　1回／月		設立1年目　全て与える指導（受身教育） 2年目　与える指導＋自力（能力） 3年目　自力（能力）＋見守り指導 4年目　3年に同じ　設立3年目になる
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流はあるがサービスの向上の為の話し合いはされていないと思われる。　余り他の事業所との交流は無いと思われる。	○	地域同業者との連携作り
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士のすれ違いを解消の為、勤務の組み方を工夫している。　能力に応じて動く事、できない事はしない（無理は禁物）であることをつたえている。　職員の休憩時には利用者の方と離れ一息入れる場所を設けています。	○	職員同士の意思の疎通を図る。 穏やかな入居者の心身であればストレスは半減する。その為の工夫をしていく事。　リフレッシュ休暇をなるべく取れるようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けれるような職場環境の改善に努めていると思います。 年間個人目標の設置と実行		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに何度か話し合いを行い相手方を訪問する機会を作っていると思われる。 入所前に面談を行い本人自身から話を伺っている。 利用した時は時間をかけて聞くようにしている。	○	不安、疑問を抱かせない、コミュニケーションを心掛ける。　　相手を心より受け入れる、知る
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報収集、要望等を管理者が場を設けて行なっています。 利用前に面談を行い家族等から話を伺っている。		不安、疑問を抱かせない、コミュニケーションを心掛ける。　　相手を心より受け入れる、知る
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに相談にみえる方でホームが合ってない、必要でない方々に対しては他の対応方法、認知症の対応の仕方等を伝えている。	○	一つのサービス提供だけでなくその他のサービスについても説明ができるよう制度の把握に努めていきたい。（職員）
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学、面接、話し合いは十分にされています。 利用者の方の今までの生活のリズムを把握し徐々に馴染んでいってもらっています。 なじみの継続をできるだけしている。	○	徐々に馴染んで頂くように毎日決まった時間に家族と電話する等不安を和らげる配慮をしている。 利用者の方に安心し馴染んでもらえる様に時間を掛けて会話をしていきたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを聞き出し一方的な介護にならないように気をつけています。 お世話をさせて頂く事に感謝の気持ちを持って取り組んでいます。	○	食事作りなどを通じて利用者の方の知識を分けて頂いてます。　一方的な援助にならないように同じ視点に立ち「共に生きる」感覚を持っていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	**○本人を共に支えあう家族との関係** **職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている**	ご家族が一員と思える対応、環境等に苦慮している。 ご家族と一緒にケアする事が基本にあります。 利用者の家族と些細な事でもお互いが不安、不満とならないように話し合い介護の方法、対応を決定している。家族の思いなどは余り交流する機械がないのでつかみとれない。	○	家族の方が集まる会を年に数回開き交流を図っています。　　利用者や家族の立場を尊重し、ライフスタイルを守る姿勢を養っていきたい。 ご家族をお客様にしない。
29	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** **これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している**	事前の聴き取り等で家族と本人の関係等を把握しどのような対応が家族、利用者の双方にとって最良なのかをみんなで話し合い方向を決めています。随時、家族の方に利用者の方の様子を伝えています。	○	当ホームの行事などに家族を招待するなどして本人と家族の更なるより良い関係作りに取り組んでいます。 本人と家族が交流できる機会をより多くしていきたいです。
30	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** **本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている**	利用者の友人や親族の方が面会に来られた際は気持ちよく利用者の方と会って頂ける様心掛けています。 知人に電話したり職員付き添いの元自宅に戻ったりしています。　　住んでいた場の行事やその場所への外出などを行い少しは継続できていると思います。	○	遠方からみえた入居者の方は特に関係が途切れかちなのでそのような方に関しても積極的に支援していきたいです。　　本人にとって馴染みの深いもの（心のより所、支え）に関して出来る限り途切れないように支援していきたいです。
31	**○利用者同士の関係の支援** **利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている**	一般社会と同じと捉えケンカもあり、揉め事もありが普通と捉える。何かの時には支えあい助け合える関係作りを心掛けている。 一人一人の個性や性格の良い面を引き出しながらみんなで助け合い一つの目標を達成出来る様見守っています。　　努力はしているができていない部分が多いように思われます。	○	必要時には職員が介入し「共に生活していく仲間」であるという意識を互いに持ち理解し支えあえるようにしています。　　相性の悪い方同士も出てきている為その方々にあったケアをしていきたいと思います。
32	**○関係を断ち切らない取り組み** **サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている**	サービスを終了した方の家族の方との交流も以前と同じ様に対応していると思います。	○	サービスが終了した方やその家族も当ホームの行事等に招待していきたい。 サービスが終了した方やその家族でもいつでも相談を受けつけ、必要があればアドバイスもしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いやりや希望は、職員が多くの関わりを持ち接する事で情報として得るようにしている。より良い支援が均一に出来るように細やかな生活の見直しをするよう努力している。　　会話や観察から本人の意思を汲み取る努力はしている。	○	利用者1人に対してあまり時間を割けないので、もっと観察眼力の増強「みる」事の進め、豊かな感受性を持つことを養っていく。　　帰宅願望がある場合には職員付き添いの基、本人気の済むまで付き合っています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者1人ひとりの生活暦や価値観については、個別ファイル等を確認しながら本人との話や家族から過去の情報を伝えてもらい把握するよう努力している。 記録やコミュニケーションから今までの事を探っていくよう努めています。	○	情報収集から得た趣味や好きな事について個別に楽しんでいけれるように工夫をしていきたい。 家族等の情報がまだまだ少ないのでもっと積極的に情報収集していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録等に現状が把握できるように個々に記録している。　　様子観察、コミュニケーション、関わり合いから1人ひとりの残っている力、心身の状態をみ極めるように努めています。	○	個々にあった役割や趣味などを取り入れ支援に活かしていきたい。 心身の状態、できる事、出来ない事の「み極め」の継続、環境の見直しをしていく。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護の基本＝日常の生活ができる。 毎日のミーティング（朝）が現状に応じたプランであるが、それが紙面に表現できていない。　　利用者1人ひとりについて気がついた事を話し合い介護計画にいかしています。会議を開きそれぞれの意見を基に作成している。	○	利用者がより過ごしやすくなるようにもっと密な話し合いをいろいろな人を含めて話していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては日々の業務のなかで本人や職員が改善したほうが良いと考えられる事は会議などで話し合い、見直すようにしています。 その場の現状に応じた新しい介護計画は作成できていないと思います。	○	利用者、家族、職員等といつでも連携がとれ新しい介護計画をすぐに作成できるようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日あった事や気づいた事等は申し送りノートや個別ケースに記載しています。 毎日少しの変化などを記録にとり情報を共有し、ケアにあたっています。記録のとり方：客観的な書き方、会話形式、現実に起こった事実のみ記載し書き手の意識、感情は入れない。	○	日々の記録から次への問題を把握出来る様にしていきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に合わせた対応をしていると思います。　　緊急時における対応は本人や家族の希望に沿ったサービスを臨機応変に行なっているとおもいます。	○	当ホームの特徴を活かしその場、その場を柔軟に対応し支援していきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを積極的におこなっています。民生委員やボランティアの方が支援して下さいます。	○	これからの課題：待つのではなく動き「出て行く」事を1番に考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは今のところ受けていないが必要に応じ活用していくことは大事と考えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターのケアマネジャーの方がいつも参加して頂いております。	○	連動ができたらいいと考える。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医師、医療機関に受診できるように対応している。　　本人が今までに利用していた医療機関を基本としている。又必要に応じてかかりつけ医の紹介や本人、家族より希望をとるようにしています。	○	健康な心と体を維持する為にもかかりつけ医との連携をさらに密にしていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	管理者と面識のある認知症専門医がいる為必要に応じて利用者の方、家族の方に診断や治療を勧めています。	○	きちんとした認知症診断のもとに認知症ケアを実施。医師、医療との連携を強くしていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は確保していない、その為、急変やアクシデント等については併設する特養の看護職員に相談し対処してもらっている。地域の看護職員は良く知らない。　　主治医であるDrやNsとは極力相談できるようにしている。	○	グループホームに看護職員を配置できれば健康管理や医療活用の支援の質が上がると思います。又併設する特養の看護職員とも今以上に密に連携しやっていけたらよい支援ができるとおもいます。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院につては病院、家族、当ホームで話し合い最良の選択ができるようになっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時から家族の方（本人も含め）とは終末ケアについては話し合っています。又急変による入院等による変化につてはその都度医師を含め本人、家族の希望を考慮した上で方針を出していっていると思います。	○	ご家族の意向、本人の意向に合わせて終末期ケアを実施（当ホームで出来るとこまで）
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の意見を伺いつつ今、ご家族が利用者が何を望んでいるのか何が出来るのかを話し合い支援しています。	○	かかりつけ医との信頼関係を気づいていけるように連絡を密にとっていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所へ移り住む時には本人の身体状況や支援状況など引継ぎに必要な情報を確実に伝えています。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方1人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けには十分に注意を払っています。また、記録等の個人情報の漏洩には細心なる注意を払っている。	○	知らず知らずのうちにその方の誇りやプライバシーを損ねるような行為、言葉掛けをする可能性があるので職員間で誇りやプライバシーについて随時話し合いを開いていきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の一方的な支援ではなくその都度声掛けを行い分からない事は分かるまで説明して理解を得て行なっている。　利用者自身が意思を表せるように信頼関係を築ける努力をしている。	○	その方が本当に自分の思いで動いているのか、本当に理解できているのか職員の自己満足ではないのかをみんなに問いかけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望、ペースに沿って日常生活の支援を行なうようにしているが時に利用者本位から職員本位になっているときがみうけられます。又本人の希望される事であっても本人にマイナスになるような事は十分説明し納得してもらった上で方向転換して頂いてます。	○	ついつい忙しい時、人員不足時などは職員本位になりがちだが職員同士で話し合い、利用者1人ひとりの生活のリズムを第一に考えれるようにしていきた。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される方については行きつけの店や当ホームの近くにある店に家族、職員などが付き添いながら出掛けています。又出掛けるのを望まない方等は利用者の御家族がボラの散髪を当ホームで行なってくれています。	○	おしゃれは大切であると考えている。毎日の衣類の着替えに合わせ、センスの良い服が着れる様にしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立については、なるべく入居者の食べたいと思うものを考慮しながらバランスよく、和洋中それぞれとり入れ作成する。調理から片付けまでをできる限り利用者の方と一緒に行なっている。	○	調理から片付けまで利用者の方と一緒に行なっているがついつい利用者の方が同じ方ばかりになってしまい不平不満が出る為なるべく均等にできる様にしていきたい。作る事に職員が夢中となり会話が少ない、楽しい会話ができるように支援
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒を希望されて飲酒されている方は2名いますが時間、場所を決めて飲んでもらっています。又利用者の方が食べたい物等については買い物時に一緒に買に行ったりしています。	○	利用者の方がその時になにがほしいのかを把握しなるべく希望に沿えれるようにしていきたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄した時間を記録し排泄のパターンをつかんで声掛け、誘導等を行い失敗やパット、紙パンツの使用を軽減できていると思います。　又失敗が軽減できる事で利用者の自尊心も保たれ体に感じる不快感を少なくなっていると思います。日中と夜間で対応を違えている。	○	なるべくパット、紙パンツ等を使用する利用者の人数を軽減していきたいです。その為には今以上に利用者の排泄パターンを読み取り細やかなケアができていければよいと思います。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は決まっておりその中で声掛けをし本人が希望される時に入って頂いています。但し毎日同じ方が優先されないように順番を決めその日その日で順番が変わっていくように配慮しております。入浴が嫌いな方でも職員の声掛けによりなるべく入って頂くようにしています。	○	現在、脱衣場と洗濯場が同じスペースにあり利用者の方がなかなか気持ちよく入浴できる環境ではないと思うのでその環境を改善できるようにしていきたいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、安眠できるようになるべく日中は起きていてもらいまた活動的な生活をして頂けるように支援しています。又利用者によっては日中でも1時間ほどの休息を設けて無理の無い生活を過せるように支援しています。	○	夏場になると日中、気温も高くなり体に対する負担も他の季節よりかかってくるため活動を控えめにし昼食後は少し休息が取れるように時間を作り夕方、比較的涼しくなってから散歩など活動を増やしていくようにしています。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力にあった役割をお願いしたりし職員と共に取り組み生活に張り合いを持ってもらえるようにしています。又生活歴などから利用者の方が昔は何を行い今何をしたいのかを考えながら楽しみ、気晴らしのある生活ができるように支援しています。	○	現在、生活歴等の中から利用者の方が何をしたいのか等の把握が出来ている方は少人数の為、もっと多くの利用者の方を把握していきたいです。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がありお金のトラブルのリスクが少ない方については少額ではあるが個人で所持しておられます。これ以外の利用者の方につてはこちら側で責任を持って預からせて頂き、必要時に出し本人、職員に渡しています。	○	利用者個人のお金を自分達で持って自分の買いたい物を自分でお金を払って購入できるように支援していきたいです。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候、気温、その方の体調などを考慮しつつなるべく利用者の希望に沿えるよう外出して頂いています。又朝、夕に定期的に散歩を行なっています。	○	職員だけでは外出する機会にも限界がある為、家族の方等にも協力をお願いして、もっともっと外出の機会を増やしていきたいです。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1人ひとりの希望に沿って外食、ドライブなどを行なっています。その時は個別ではなく他の利用者と一緒に出掛けています。又家族とも連絡をとり家族の連れ出しも行なってもらっております。	○	利用者と職員間での話し合いが少なく感じる為もっと話し合える場を作っていきたいです。又あまり遠出していない為、その機会も話し合いをして作っていきたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等は丁寧に対応し本人のプライバシーの侵害がないように、又相手にも不快な思いをさせないように配慮しています。本人自ら電話したい時も職員に一声掛けて頂ければ快く会話して頂いてます。手紙についてもスムーズにやり取りができる様に支援しています。	○	もっと電話の対応などの勉強をしていきたいです。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中であればいつでも訪問に対応しており、訪問して頂いた折は気持ちのよい挨拶とお茶の提供は職員に徹底されております。	○	訪問して頂いた方々に居心地よく過して頂く為の環境をもっと整えていきたいと思います。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法に関しての知識については職員の間で若干の開きはあると思いますが、身体拘束をしないケアは職員が一丸となって現在も取り組んでいる。当ホームについては一切身体拘束は行なっておりません。	○	介護保険法について勉強会などを開き職員が同じレベルの知識を持てれるように努力していきたいです。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームについては日中は玄関は一切施錠する事はありません、21時以降に関しては防犯上鍵をかけさせていただいております。居室につては職員から鍵をかけることは日中、夜間ともありません。利用者の方が中から鍵をかける事はあります。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中に関しては職員がフロアー全体に目を配り常時所在確認できていますが、職員の引継ぎ時、休憩時等などのちょっとした隙に見失ったり事故につながる事があるので注意をしています。夜間に関しては職員が1時間に1回は必ず巡廻じ所在確認と様子観察は行なっております。	○	どんな時でも常に利用者に目が向けていられるように又危険をすぐに察知できるように職員同士で声掛けを随時していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、はさみ等に関しては、事務所に保管してあり必要時に利用者に渡しています。庖丁などについてはいつでも手の届く所にあるが常に職員も近くにおり安全な体制をとっており、又チェックリストを作成しその都度チェックしています。夜間に風呂場の施錠をしている（2Fのみ）	○	利用者の能力を職員が細かく把握し危険な物であっても職員の見守りの中で色々な物を使用していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんなことでもヒヤリハット報告書を書き職員同士で情報を共有出来るようにしている。又1人ひとりの状態を全職員が把握し未然に事故が起こらない様に取り組んでいます。	○	研修の場を設けヒヤリハット事例の検討会を開いていきたいです。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行なってはいないがある程度年数のいった職員は経験から多少の応急手当や初期対応は出来ていると思います。	○	少なくとも年に1回は専門の方に応急手当等の講習会をお願いしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回当ホームと併設する特養合同で避難訓練を行なっています。又緊急連絡網を作成しスムーズな連絡が取れるようになっております。災害対策等の研修なども職員が受けておりそれを基に職員同士で勉強会も開いており意識の徹底がされています。	○	地域の人々への働きかけがまだまだ少ないと感じる為、行事等で接する時には声掛けをしていきたいと思います。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	体調の急変、怪我など起こり得る事については家族と連絡を密にとり利用者の暮らしやすいように対応していってます。	○	自分達が考え得るリスクはまだまだ少ない為ついつい予期せぬ事態になる事があるのでもっと職員同士で話し合い多くの起こり得るリスクを考えていきたいです。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、利用者全員のﾊﾞｲﾀﾙチェックを行い記録し職員同士で情報の共有を行なっている。又体調不良者につては個別に記録用紙を作り些細なこと（食事量、水分量、排泄、表情等）も記録している。	○	ﾊﾞｲﾀﾙチェックは朝のみの為その後体調不良になった場合は気付くのに遅れる時がある為、朝の体調で安心せずに利用者のちょっとした変化を見逃さないようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量につては徹底したチェックがされており職員も薬の重要性に関しては徹底されています。	○	薬の目的、副作用につてはまだ職員1人ひとりが理解できていない所もあるので専門職の方に勉強会などを行なってもらう様にしていきたいです。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝必ずヨーグルトを摂取してもらい、排便チェックも毎日行い、出ていない方に関しては薬、牛乳、運動、腹部マッサージ等を行い対処しています。	○	利用者1人ひとりの排便の周期を把握できるように排泄チェックを更に確実にしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアのチェック表を作成して毎日口腔ケアが実施できるように対処しています。義歯の方に関して週1回必ず薬を使い洗浄して清潔保持に努力しています。又歯科医を招いて正しい歯の磨き方等の講習会などを行なっております。	○	歯を磨くだけではなく舌の汚れも口臭の原因になり口腔内の衛生環境もよくない為、舌の汚れも含めて口腔ケアをしていきたいです。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいない為、カロリー計算等はできていませんが、1汁3品の副食（おかず）は必守で、バランス良く食べていただいていると思います。又食事チェック表を作成し食事量の少ない方に関しては本人の食べれる物や栄養価の高いものを提供しています。水分に関しては1日1000cc～1500ccを目標に飲んで頂いています。	○	食事量の少ない方、食べない方についてはなぜ食べれないのか、食べないのかの原因を把握し、何が本人は好きなのか等を会議で話し合っていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	職員に関しては感染予防の為インフルエンザの予防接種を受けています。利用者に関しては家族にお願いして予防接種を受けて頂く様にしています。又外出から帰宅後、トイレ後、料理前等は塩化ベンザルの消毒液で手を洗って頂いています。1年を通じ手洗いの励行を実行、1日3回液の取替えをしている。	○	職員にまだまだ感染症に対する知識が少ない為、事あるごとに研修等を受けていきたいです。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具は毎日、使用後に必ず洗浄しています。食材に関しては余らない分量しか買わず、冷蔵庫の中身も1～2日で使用するように努めています。毎日1回食材の買い出しをする。	○	冷蔵庫の扉に小さなホワイトボードを張り付け職員同士の食材の連絡板として使用しています。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	消臭器を設置し、誰もが気軽に入りやすいように玄関前には花を植えて明るい雰囲気を出しています。又玄関内にはいたる所に花瓶を置き尋ねてきてくれる方が和むようになっております。	○	清潔感あふれる気持ち良い臭いのしない玄関にしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に室内には花と緑があるように配慮。消臭器を各々2台設置している。	○	快地良い空間創りをしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などにイスやソファーなどを設置してあり利用者が1人でも気の合った方とでも自由にのんびり過ごせるようになっております。又共有空間の隅には利用者が書いた書道や皇族のカレンダーなどを貼り1人ひとりが思い思いに過せれるように配慮してあります。	○	もっと季節感のある花や民芸品、小物などを利用者の目につく所に置いていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家族と相談しながら今まで使用してきた物、たとえば布団、湯のみ、写真、家具等を使用する事で落ち着いて日常生活を過す事ができる。	○	ご家族への呼び掛けをしていく。利用者1人ひとりが居心地よく過せれるように居室内を利用者と職員とで工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調を崩さないように常に室温には気をつけており外気との温度差はあまりつけないようにしています。1フロアーに2台の消臭器を置き嫌な臭いを出さないように配慮しています。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっており廊下も幅が広く、手すりもいたる所に設置されています。現在もキッチン、浴槽、トイレなどで、生活空間の整備に取り組んでいます。	○	浴槽の手すりの設置、トイレの手すりの設置を行ないました。できること、できないことをみ極めて環境の動線作りの徹底を図る。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人ひとりの居室の扉には別々の色の色紙を貼り、表札を貼り、数名の利用者は暖簾をかけています。トイレについては扉に大きな文字で「便所」と張り紙を貼っています。浴室については出入り口に温泉マークのついた暖簾をかけています。	○	1Fと2Fの作りがほとんど同じの為、時々階を間違える利用者が見えるので階の違いをどのようにすれば確認出来るのかを検討していきたい。又利用者のスタンスで職員が創意工夫を図る。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当ホームの庭にベンチを設置しのんびり庭を見たり気の合った利用者同士で話し合ったり、お茶会を開いたりしています。その庭には家庭菜園もあり作物（きゅうり、ナス、ピーマン等）の収穫を楽しめれるようにしています。	○	もっと家庭菜園の規模を大きくし他に色々な作物を利用者の方と一緒に作っていきたいです。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取　り　組　み　の　成　果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

自然体であること。お天道様と共にあること。こだわりをすてること。ほどほどであること。等を念頭に置き支援および管理運営。
また、ケアプランの完結は「死」。よってプランのメイン目標・継続目標は「どう死すか」死する為にどう生き暮らすかであると思う。次の目標は「日常生活ができる」。
命の重さを噛み締めながら、淡々と普通に生活がおくれることを願い支援している。